

第10回未来教室 渋谷区立臨川小学校

1、学校名 渋谷区立臨川小学校

校長 徳満 哲夫 副校長 宮田 俊明

2、住所 渋谷区広尾1-9-17 TEL 03(3441)3012

最寄駅 JR山手線恵比寿、地下鉄日比谷線 広尾駅 徒歩5分

3、開催日時 平成24年3月14日(水) 3・4・5年

同 3月15日(木) 6年

*水曜日 1~2時間目 8:30~10:05(45分授業)

*木曜日 1時間目 8:50~9:35(45分授業)

4、

(1) 授業学年と授業内容(3月14日)

○ 5年—25名(東レ株式会社) 2時間目(9:20~10:05)

・科学(理科) 授業者—金森麻理子氏

※繊維の不思議と秘密(環境教育を兼ねて)

○ 4年—40名(東日本旅客鉄道株式会社) 2時間目(9:20~10:05)

・鉄道網のシクミと秘密(働く仕組み) 社会科 授業者—持立雄也氏

○ 3年—21名(読売新聞東京本社) 1~2時間目(8:30~10:05)

・新聞作成のシクミと秘密「インタビューをしよう」 授業者—徳毛貴文氏

(2) 授業学年と授業内容(3月15日)

○ 6年—25名(ワタミ株式会社) 1時間目—8:50~

・総合的な学習の時間(働く人) 授業者—中川直洋氏

※卒業するに際して、子供たちの将来に向けての職業観・勤労観を持つきっかけづくり。

5、ご協力企業

・東レ株式会社 ・東日本旅客鉄道株式会社

・読売新聞東京本社 ・ワタミ株式会社

当日の様子



「未来教室」ワタミさんの授業を聞かせていただいた感想

渋谷区立臨川小学校 6年担任 坪池 学

「夢は胸に抱いているだけでは価値がなく、言葉や文字で発信するから実現する。

夢の実現がゴールではなく、その状況で自分が何をすることが大切だよ。夢を職業にしよう。」

この概念を基にした授業内容だから、卒業を間近に控える児童が、夢＝職業観を、具体的に表現する意識の喚起に繋がった。

夢を実現している自分＝ゴールの姿と設定し、何歳で、どこで、どんな風に、記録は？ 規模は？ 何を扱うの？といった観点を提示されていた。

児童に設定させながら考えさせることができるし、特に日付（時期や歳）を設定させることで、将来を具体的に現実的にとらえる児童が多かった。

特に、夢実現の過程で、常に「中学校でどんな力をつけるの？」「高校ではどんなことを学んで夢に近づくの？」と、中・高の学校現場を舞台としてとらえさせていることに、素直に嬉しさを感じた。

昨今、夢の実現のため、幼い頃から海外に修行に行ったり職業の現場を経験させる保護者が多い。その手段もすてきだと思う反面、その実現の裏側には、集団で過ごす学校生活が削られているという現実も含まれている。

夢の実現は「まず学校生活」が舞台であるという講話に魅力を感じたし、教員としてもっとできることを探そうという意欲をかき立てられた。

（公教育の存在価値を改めて問われていることも痛感しています…。）

小学生にとって、この時期は独特な雰囲気を感じられる時期です。

「〇〇したい」という願望から、「〇〇のような生き方をしてみたい」や「〇〇になりたい」などと生き方や職業観へと、意識が変わってきます。

その視点からも、本日の授業は、具体性の伴った自己実現の第一歩として、大きく価値があったと感じました。

臨川小学校未来教室参観記

特定非営利活動法人おやし日本 副理事長 納富善朗

臨川小学校6年生の未来教室のテーマは、「将来の職業観、勤労観」。担任の先生の話では、「卒業文集を作り卒業式での決意表明を考える良いタイミングでの開催」とのことでしたが、中学校に進んで更に難しいことを勉強する意味を自覚する上でも絶好の時期だったと思います。

中川講師の「あなたの将来の夢は何ですか」の問いかけに、「女優」、「宇宙飛行士」、「アニメ制作」、「漫画家」、「テニス選手」、「レゴ製作者」といった声があがりました。この発表を受けて、講師からスケジュールシートが配られ、「是非、夢を仕事にしてください。しかし、思っているだけでは実現しません。実現するために、いつ（いつまでに）、何をするか（どのよう

になるか）、を具体的に考えてみよう。そうすることで、今何をしなければならないのかが分かってきます。」と、考えるヒントが示されました。講師が手がけているプロジェクトの紹介を通して、会社員になっても、会社で何がしたいのかを考え、それを実現することが大切です、という話もありました。

手探りで未来社会への階段を上っている子どもたちにとって「羅針盤」となる目標（将来像、夢、希望、職業観など）は不可欠です。わずか45分の授業でしたが、参観して、大人側の責務としてのキャリア教育の意義や、夢を刺激し学ぶ理由（動機）を明確にすることが日々の学科指導の礎になることを実感しました。

渋谷区立臨川小学校「未来教室」参観記

特定非営利活動法人おやし日本 未来教室担当 高島信義

本日の授業参観を通して、「出前授業の在り方」で授業者と担任の先生から、2つの大切なことを教えてもらいました。

その一つは、「外部授業者と担任の先生とのかかわり方です。」子どもたちは、初めて接

する授業者には、多分の緊張感を持って迎えます。この緊張感を和らげ、いつもの通りの授業になるには、授業者と担任の先生との関係をどのように作っていくかが大きなポイントとになります。これは、通常学校で行われているT・Tの関係というより、柔らかなコラボの関係を作り上げることが大切であることを示しています。子どもたちが外部授業者と担任の先生が仲良くしている姿を見ることこそ魅力ある授業にするコツだと思います。

二つ目は、「外部指導者と子どもたちとの距離を短（身近）くすることです。」このことは、最後まで子どもたちの授業対するに興味を持続させることにつながります。視覚に訴える、聴覚に訴える、手で触る、触れる等、触覚に訴えることなどがありますが、このことが、第2のコツになります。そして、この二つに、子どもたちのときど

きの作業が加わると、授業は、さらに広がり、興味を持って展開していきます。今回の授業は、授業者がこれまでの授業にさらに手を加え、上記の、二つのコツに近づく授業に仕上がっていました。子どもたちは、45分の時間中、飽きることなく授業に参加していました。

授業者が、制服を着て現れ、担任の先生との軽快なやり取りからの「導入」。そして、授業者の子供の時の「夢」（何になりたかった）への「展開」になると、子どもたちの緊張は一気に取り払われ、説明中心の、電車が走る「シクミ」そして、働く人の苦労、夢を持つことの大切さの、授業の中心部分に入っても、子どもたちの反応はすこぶる良く、トントンと授業は進んでいきました。参観している私たちをも巻き込んで満足のうちを終了しました。

最後に、一人一人の子供が帽子をかぶらせてもらい、その満足した笑顔からは、本日の授業の結果を物語っておりました。このことは、お別れのハイタッチによく表れておりました。授業者の工夫と、担任の先生とのコラボが、見事に実を結んだ授業でした。

渋谷区立臨川小学校「未来教室」参観記

特定非営利活動法人おやし日本 学校と企業との連携担当 池田利美

3月13日（水）臨川小学校の3年生20人を対象にした読売新聞東京本社さんの「ことばの授業・インタビューをしよう」を参観しました。

講師は、元社会部記者の徳毛さんと教員を目指す城さん（千葉大学教育学部3年生＝NPO企業教育研究会）です。

「新聞記者になってみよう」ということで、記者の必須アイテム「メモ帳」が全員にプレゼントされ、それを使い「メモをとるコツ」の勉強から始まりました。

徳毛さんのお手本としての担任の先生へのインタビューが披露され、いよいよ本番がスタートです。5名のゲストの方の協力を得て実施、生徒が1人ずつインタビューを行い、その内容を班ごとに模造紙にまとめて発表を行いました。

ゲストの方は、飲食店経営、美容師、大学院生、教師など様々でしたが、3年生としては驚くほど上手なまとめができていました。そして、協力いただいたゲストの方からは、「楽しかった。子どもたちがうらやましい。」という声も聞かれました。

同じ3年生の子どもさんを持つ徳毛さんの明るく優しい語り口とハキハキと進行する城さんのコンビネーションが、授業をより楽しいものにしてくれたのではないのでしょうか。